

横浜市立

ろう特別支援学校



令和8年度学校便り No. 3

ホームページ : <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/ro/>

「門前の小僧、習わぬ経を読む」

聴能担当 木村 淳子

難聴がある A さんとは十年以上の知り合いです。今でもときどき話しますが、ボランティア活動など積極的に動き、さまざまなことに関心をもつ姿勢にはいつも感心させられます。

A さんが小学生のときに「門前の小僧、習わぬ経を読む」ということわざを理解することができなくてお互いに苦労した、という思い出があります。聴こえにくい方にとって、このことわざはとても難しいものです。私が「どうして小僧さんはお経を覚えたのかしら？」と言ったら、「小僧さんが努力したのでしょう」「お母さんが一生懸命教えたのではありませんか」と答えていました。「聞いて自然に覚える」という経験がないため、想像することも難しかったようです。

大学生のときに同じ質問をしたところ、「耳から聞いて自然に覚えたのでしょう」と教えてくれました。そのときに、次のような会話をしました。

私:小学生のときは「お母さんが一生懸命教えた」などと答えていましたが、どうして今は「耳から自然に覚えた」ということを知っているのですか。

A さん:漫画や本、あるいは健聴の人と話す中で、健聴の人はこうやってきいているのだな、覚えるのだなということを知っていったからだと思います。

私:それはすごいことですね。自分では経験していないことを理解するってなかなか難しいことだと思います。

A さんが大学生のときには「健聴者は寝ていても何でも聞こえて覚えているのではないのですか」と尋ねられたことがあります。「熟睡したら聞こえないし、内容を理解することもできません。大学の講義で寝ていたらだめでしょうね」と答えたことを覚えています。このようなふとした会話も、A さんが周囲のいろいろなことをよく観察し、疑問に思ってくれたからこそ生まれたものでした。

「疑問に思う力」は必ずその人の力になっていく、と感じることが多くあります。「疑問をもちなさい」と言っても、なかなかもてるものではありません。子どもたちの疑問の一つひとつを大事にし、疑問を出してくれたことを喜び、驚き、ともに考えていきたいと思っています。

6月8日(月)に行われた令和8年度第1回学校運営協議会において、ご承認いただいた「令和8年度 中期学校経営方針」を掲載します。

横浜市立 ろう特別支援学校 幼小中高通部 令和7-9年度版 中期学校経営方針 (令和8年度修正)

学校教育目標	○障害を見つめ、よりよく生きようとする子ども(知) ○豊かな人間性をもつ子ども(徳) ○心身ともに健康な子ども(体) ○人とのかかわりを大切にする子ども(公・開) 聴覚に障害のある幼児児童生徒一人ひとりの状態に応じた教育を行い、可能性を伸ばし、心身の調和的発達を図りながら、自他を愛する豊かな心情、社会の一員として必要な基本的態度・習慣・知識・技能の習得を目指し、社会参加、自立、自己実現していく子どもを育成する。																	
	学校概要	創立	101	周年	学校長	定岡 孝治	副校長	大杉誠・佐々木貴子	2	学期制								
	幼児・児童・生徒数:	69	人	幼稚部:	19	人	小学部:	21	人	中学部:	11	人	高等部本科:	18	人	専攻科:		人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた 18年間で育てる子ども像」と具体的取組
コミュニケーション力 ことばとところ 社会で生きていく力	社会の中で良好な人間関係をつくり、社会参加・自立・自己実現する子ども ・学部を超えた「一貫教育」 ・生きる力のための「確かな学力」 ・より良い人間関係のための「確かな情報伝達」 ・全人的な人間形成のための「健康・安全・安心」 ・社会性や集団性、対人意識育成のための「交流教育」 ・将来の夢や目標、意欲のための「確かな進路」

中期取組目標	☆子どもたちが自分の姿を見つめつつ、自己肯定感、自尊感情をもって成長できる学校 ☆子どもたちが自己実現のために主体的に取り組み、学校生活を楽しめる学校 ☆教職員が聴覚障害児教育の専門性を維持継承しつつ、障害特性に配慮した基礎的環境整備を整え、合理的配慮を提供する柔軟な個に応じた教育を実践する学校 ☆教職員が働き方改革の理念を意識しつつ、お互いに支えあい、学びあい、教師力を高め魅力ある学校 ☆横浜市唯一の特別支援学校(聴覚障害)としてのセンター的機能の発揮と発信を積極的に行う存在感のある学校
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく力	<ul style="list-style-type: none"> 個々の実態、状態を的確に把握し、個に応じた柔軟な指導、支援を展開する。 ねらいを明確にした授業を展開する。・読書活動を積極的に推進する。 ICTを積極的に活用し、実践事例を蓄積、共有する。
徳 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 個を認め、良い点をほめ、自己肯定感、自尊感情とともに、他を認める気持ちを育てる。 カリマネを意識し、教科横断的にことばとところを育てる指導、支援を実践する。
体 健やかな心	<ul style="list-style-type: none"> 体育、部活動、行事等を通してスポーツを楽しむ意識を育てる。 食育、健康教育を推進し、心身の健康的な成長や自己管理を学び、実践する意識を育てる。 発達段階に応じた包括的性教育を実施していく。
公 開 人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 副学籍交流、学校間交流を可能な範囲、方法で行い、地域の中で生きる意識を育てる。 オンラインを活用して人をつながる方法を実践する。 発達段階や状況に応じ、自己の障害を認識し社会との関わり方を学ぶ機会を積極的に設定する。
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会を活用し、情報の共有、意識の統一を図り、組織的な対応を進める。 研修会の実施や情報共有により、教職員全体でいじめの認識や対応等の統一に努める。
人材育成・組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> チームの意識をもって一人ひとりを尊重し、お互いに支えあい、高め合う職場を作る。 自らの課題に応じた研修を積極的に受講し、指導力を高める。 ICTの活用と日常の積極的な業務見直しを推進し、効率的な業務遂行を図る。
センター機能の発揮	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを中心に地域との連携・支援を積極的に推進する。 通級指導教室の支援センター機能を活用し、在籍校との連携を図る。 聴能担当を中心に市内の難聴通級指導教室等に対して、補聴に関する情報提供、相談業務を行う。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 可能な範囲で職場体験、実習等の体験を実施しつつ、個のニーズや実態に応じた系統的、計画的な進路指導に努める。 ・他学部との連携や先を見通した系統的な指導、支援とともに、保護者の理解促進を図る。 キャリアパスポートの活用を進める。
児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題に対してSC、SSW、関係機関とも連携し、適切、迅速に対応する。 低学年からスマホ、SNS等に関連した指導を実施し、マナーや意識の向上を図る。 基本的な生活習慣の確立や課題の早期発見等について、保護者との連携を図る。
安全安心	<ul style="list-style-type: none"> 系統的な防災学習をもとに、より実践的な避難訓練の実施に努める。 危険箇所等の施設改善、改修を進め、事故の未然防止に努める。